

高円寺の四大祭りについて

2年前、この高円寺地域区民センター協議会で意見交換会を開催した際、「商店街を中心とした高円寺地域の活性化への取組み」と題し、地域の魅力発信についてお話を伺いました。今回は視点を変え、「シビック・プライド」というテーマで、改めて特集いたします。
※「シビック・プライド」とは、都市に対する誇りや愛着という意味を持つ言葉です。

高円寺演芸まつり

高円寺演芸まつり実行委員長 高田芳作氏



たとえば、銭湯に高座を組み立て、寄席に見立てる様なことが街中で。



特徴のある会場では、その歴史や文化を知る時間と組み合わせる事もあります。

毎年2月に開催しています。「演芸」を地域に広め、若手を応援し文化が育つことを、志にしてきました。

街に縁のある柳家紫文師匠にご協力いただき、商店会と町会が一体となり、独自に落語会を開く店の数々や文化施設にも声をかけ、現在57会場で開催。5,600名の御来場をいただきました。

古典落語の舞台・堀之内妙法寺や、街の劇場である座・高円寺。セシオン杉並に銭湯や眼鏡屋、蕎麦屋。今年は教会、美大など、多様なネットワークが構築されました。

喜びは、応援してきた囃家の真打昇進。祝いの会が出来たことは、「シビック・プライド」のひとつになり得るかと思えます。

来期の第10回は、継承と原点回帰、双方の視点で、皆さんに楽しんでいただける記念企画を考えています。

東京高円寺阿波おどり

NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会事務局長 冨澤武幸氏



高円寺が大通りが大ステージとなります。©東京高円寺阿波おどり



台湾での交流公演の様子です。©東京高円寺阿波おどり

1957年、徳島の伝統的な郷土芸能である阿波踊りを、街おこしのツールとして導入してから60年を超えた「東京高円寺阿波おどり」。今では高円寺には欠かせない地域資源となり、8月の第4土・日の開催日には、街は阿波踊り一色になります。

また、国内外への阿波踊り連の派遣・演舞を通じて「人と人」、「人と地域」を結び、相互に魅力を発信し、地域ブランディング及び地域価値の向上を目指して活動しています。これらが評価され、本年は一般財団法人地域伝統芸能活用センターから地域伝統芸能大賞活用賞の受賞が決まりました。

今後も阿波踊りを通じ、この地域に暮らす人、運営に関わる人、観覧する国内及び諸外国の人や地域と相互交流を深めながら、地域価値の向上に寄与できるよう活動を進めてまいります。

高円寺びっくり大道芸

高円寺びっくり大道芸実行委員長 城石 豊氏



街中の建造物が、まるで舞台装置のようです。©園部明彦



観る目的で集まる方から、気になり立ち止まる方まで、自由な観客席です。©齋藤盛行

「超越」をテーマに2019年4月に第11回を開催しました。ゴールデンウィークが始まる週末の時期は気候も安定し、昼間の生活道路をお借りしてのパフォーマンスは、お子さんや高齢者にもご覧いただきやすい環境です。高円寺では、災害から市民を守る消防、警察、自衛隊の活動紹介に、大道芸が協働する場面もありました。

パフォーマンスの招致は橋本隆雄氏に依頼します。元々は、座・高円寺の柿落しをきっかけに始まり、11商店会が運営を支えてきました。日本が誇る大道芸プロデューサーを迎え、高度な技術を持つプロの公演を、街中で繰り広げることが可能になっています。

実績を重ねるうち、ホスピタリティ ツーリズム専門学校の皆さんなども、現場を知り学びたいと、ボランティアに参加下さるようになったのも、嬉しい経緯でした。

高円寺フェス

高円寺フェス実行委員長 佐久間ヒロコ氏



駅前でのプロレスは、老若男女に大人気です。



可愛くて個性豊かな、ゆるキャラが大集合します。

第13回「高円寺フェス2019～秋の大文化祭～」を10月26日(土)・27日(日)に開催します。高円寺全域を舞台に、大人も子どもも楽しめる高円寺らしいイベントを同時開催。昨年は2日間で区内外から約21万人を動員し、大きな話題となりました。

駅前北口広場での駅前プロレスやライブ、中央公園でのゆるキャライベント、杉並第四小学校での人気フードイベント「カレーなる戦い」、約200軒の参加店舗を巡るスタンプラリー、各商店街での同時開催イベント、高円寺地域区民センター協議会の「きた！きた！高円寺まつり」、などで街中が盛り上がり。地域の商店街や高円寺を愛するボランティアの協力のもと、ガイドブック片手にまち歩きを楽しむ来場者が駅から離れた商店街にまであふれる参加型イベントに成長しました。

高円寺地域の魅力を再認識できる高円寺フェスにぜひ遊びに来てください！